

# グループウェアによる学務連絡(Web 掲示)における 学生達の利用実態

丹羽 俊文

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻

niwa@med.tohoku.ac.jp

## Why do not students check electronic notice on school affairs frequently?

Toshifumi Niwa

Health Sciences, Graduate School of Medicine, Tohoku University

### 概 要

東北大学医学部では学生に対してグループウェア(GW)による学務連絡を行っているが、閲覧状況からみると必ずしも全員が連絡をチェックしているわけではなく、またその頻度も高いとは言い難い。そこで学生達が GW をどのように利用しているか、特にチェックの頻度とその理由の観点から保健学科検査技術科学専攻の学生を対象に調査を行った。普段利用している情報源(複数回答可)として電子的手段を挙げた学生は学年によらず 80%程度であり、友達からの間接的伝達(70%)がこれに次いだ。紙媒体(掲示板)を利用していると回答した率は、教養・基礎教育と専門教育でキャンパス間を移動する 1, 2 年生では 40%程度であるのに対し、学部キャンパスの授業のみである 3, 4 年生の方が 60%と高かった。GW を週に一度以上定期的にチェックをしている学生は 1 年生で 54%いるが、2 年生では 26%に落ち込み、学年の進行とともに増加はみられるものの、いずれも半数以上は定期的にチェックしておらず、「思いついた時に」という回答であった。この理由として、毎日送付されるダイジェストメールを見て自分に関係する連絡があるかを知ることができるからという回答が多く、また最初に GW にアクセスした学生から口頭や SNS 等でクラスに伝達する補助的なルートが存在することも一因と思われる。さらに、GW が基本的に PC 仕様でスマートフォンでは見難いこと、ログイン認証の煩雑さも指摘されていた。今後連絡チェック率を高めるためには学生達のメインツールであるスマートフォンに対応し、時間や場所を選ばず手軽にチェックできる伝達方法を考える必要があると思われる。

### ■ はじめに

近年、ICT の発達・普及に伴い、学生に対する学務連絡をメールや Web, SNS 等を利用して発信する教育機関が増えている。東北大学の医学・歯学系部局が立地する星陵キャンパスにおいても、従来の紙媒体による掲示に加え、教職員グループウェア(GW)に院生・学生を組み込んで電子的な連絡(Web 掲示)を行っている。ツールとして Web ページによる“掲示板”と学内メールを兼ねた“連絡

帳”があり、いずれもファイル添付が可能なほか、“ファイルライブラリ”に授業資料をアップロードできるようにもなっている。これらの機能により、教務係に依頼しなくとも教員が学生に宛てて直接発信することが可能となっている。

筆者も電子的な連絡方法を多用しているが、受信者の閲覧状況が確認できることから主として連絡帳を利用している。掲示板では受信者を所属グループ単位の全員とするのに対し、連絡帳では

個人単位で指定できること、さらにはGWのページに「学内メールとして利用できる」と謳われており、受信者に確実に配送されることが期待できるからである。

しかしながら学生達の閲覧状況をみると、必ずしも全員が連絡をチェックしているわけではない。連絡の対象であるイベントの当日や指定した締切日を過ぎても閲覧していない者が何人かおり、場合により1/3にも達することもある。また、全く連絡をチェックしていないであろうと思われる特定の学生も存在している。その一方で、ほぼ全員が連絡内容を把握しているのも事実である。これは、紙媒体の掲示で確認している場合もあるが、最初に電子的に配信された連絡をチェックした何人かの学生から口コミあるいはメーリングリスト、LINE等によってクラス全体に伝達する補助的なルートが存在するためと思われる。また、予めアドレスを登録しておけば毎日ダイジェストがメールで配信され、主立った連絡事項についてはタイトルで把握することができる。一方、GWの閲覧自体はPCが基本となっているが、今日の学生達のメインツールはスマートフォンであり、いつでもPCが傍らにあるわけではない。このような情報環境も連絡チェックの頻度に影響を与えていると考えられる。

そこで今回、学生達がGWによる連絡をどの

ように利用しているのか、その実態を知るため、特にチェックの頻度と理由に焦点を当てて調査を行った。

## ■ 方法

調査対象は東北大学医学部保健学科検査技術科学専攻の2016年度1年生～4年生145名で、年度終わりに近い1月末の授業時にアンケート調査を実施した。ただし、1年生については学部キャンパスでの授業が週に半日で滞在時間が少ないこと、またこの時期に筆者の担当授業がないことから、2年次に進級した直後4月の最初の授業時に実施した。

アンケート内容は以下の通りである；(1)GWの掲示板、連絡帳の存在を知っているか。(2)普段、教務係・教員からの連絡情報をどのような手段で得ているか(複数選択可)。(3)GWによる連絡をどれくらいの頻度でチェックしているか。(4)そのような頻度でチェックしている理由。(5)チェックの頻度は学年の進行とともに変化したか。(6)Webに掲示・連絡があったことを指定したアドレスに通知する転送設定を利用しているか。(7)連絡情報を友達から間接的に得た場合、オリジナルの掲示(電子的あるいは紙媒体)を確認しているか。

これらのうち(4)以外の項目については提示

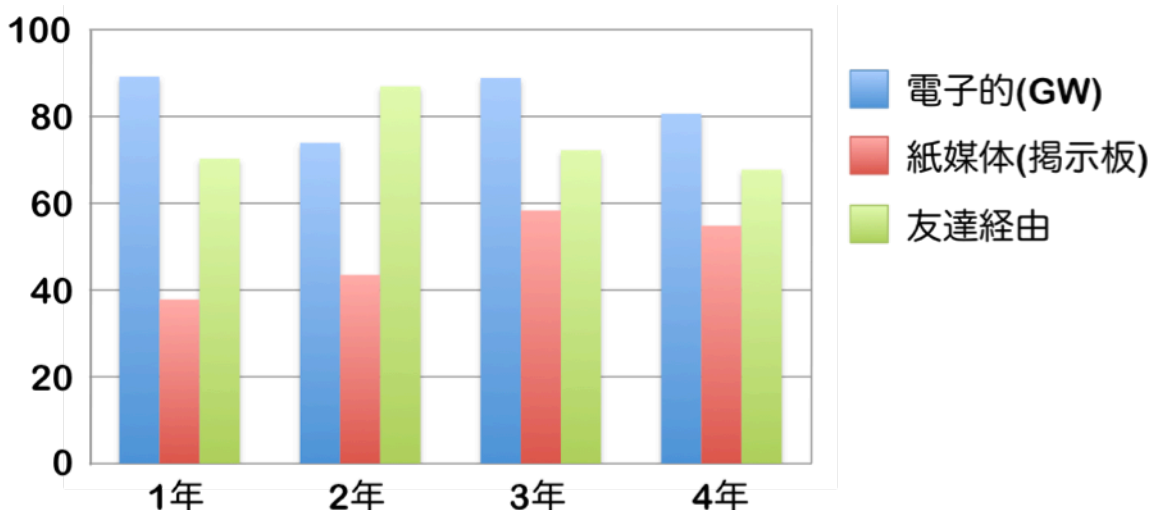


Fig. 1 普段利用している学務連絡の情報源

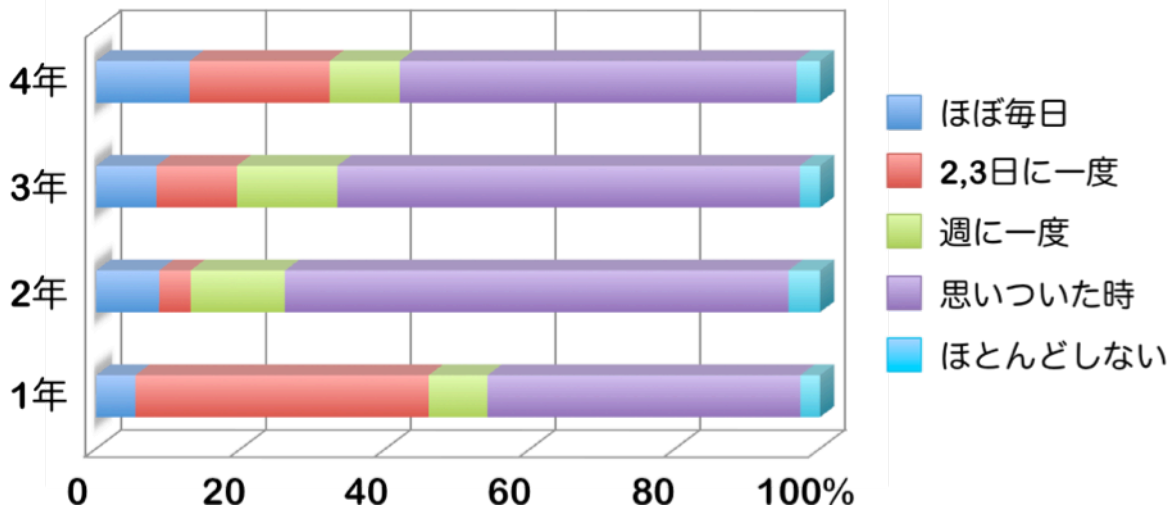


Fig. 2 GW 連絡チェックの頻度

した複数の選択肢から回答してもらい、(4)については各人の記述からキーワードを抜き出して同様の記述をまとめ分析した。一人でも複数の記述がある場合は該当するフレーズ全てに分類した。

## ■ 結果および考察

解答数は1年生 37/38 (97%), 2年生 23/34 (68%), 3年生 36/36 (100%), 4年生 31/37 (84%)であった。2年生の回答率がやや低いが、これは調査時の授業が実習科目であったため、終了時間がグループによってまちまちで一斉回収できなかったことも一因と思われる。

当然ながら GW の存在はほとんどの学生が知っていた。普段の連絡情報を得る手段として挙げられたものは、学年によらず電子的方法が最も多く、おおよそ 80%であった。友達を介した間接的手段がこれに次ぎ (70%), 紙媒体の掲示板は1, 2年生で 40%程度, 3, 4年生では 60%弱であった (Fig. 1)。2年生において電子的手段(GW)を挙げた割合がやや低く、友達経由の方がこれを上回っていることが特徴的である。また, 3, 4年生は1, 2年生に比べて紙媒体を挙げた学生が多くなっている。このような特徴は各学年による大学における生活パターンの違いが影響していると思われる。3, 4年生の授業は全て専門科目であり、普段学部キャンパスにいることから、講義棟内の掲示板を

目にする機会も多いためと考えられる。4年生の場合、11月末までは卒業研究を行っており、配属研究室によっては保健学科棟に来る機会が少ない学生もいる。この場合は電子的あるいは友達経由で情報を得ているものと思われるが、いずれにしても連絡をチェックする重要性の認識は下の学年に比べれば強いと言えよう。これに対して1年生の学習は全学教育(教養・基礎)科目がほとんどで、学部キャンパスから1.4 kmほど離れた川内キャンパスが生活の場となっている。学部キャンパスでの授業が少なく、学部からの連絡はGWに依存しているためと思われる。これに対し2年生では学部における専門科目の授業が増え、キャンパス間の移動が頻繁になるが、大学生活への慣れと1年生からの生活パターンの切り替えが上手くできていない学生もおり、後述のように電子的チェックがやや減り友達からの情報に依存している可能性も考えられる。

Fig. 2 に学年毎のチェックの頻度を示した。定期的にチェックしている学生は1年生では54%であるが、2年生では26%に低下していた。以後学年の進行とともに増加しているようにみえるが、毎日チェックしている人数は1年生から順に2人, 2人, 3人4人でほぼ変わらない。学年進行とともに頻度は変わったかという問いに対しては、増えたとの回答が50-60%で、学年が進むにつれて微増し

Table 1 GW チェックの頻度とその理由

| 理 由  | 頻 度 → | 思いついた時 | 週に一度 | 2, 3 日に一度 | 毎日 | ほとんどしない |
|--|-------|--------|------|-----------|----|---------|
| 大事な連絡があるかもしれない                               |       | 7      | 2    | 12        | 5  |         |
| PC でないと見られない<br>スマートフォンでは見られない, 重い           |       | 9      | 1    |           |    | 1       |
| ネット環境が近くになく<br>毎日は見られない                      |       | 2      | 1    |           |    |         |
| 毎日チェックする習慣がない                                |       | 1      |      | 1         |    |         |
| 習慣になっている                                     |       | 1      |      | 3         |    |         |
| GW の存在が目立たない                                 |       | 1      |      |           |    |         |
| メールで見て自分に関係あるときにチェックする<br>GW 掲示板をメール転送しているから |       | 24     | 6    | 7         | 4  |         |
| 転送が機能していない                                   |       | 1      |      | 1         |    |         |
| 自分に関係のない通知が多い                                |       | 2      | 1    |           |    |         |
| 連絡帳を知らなかった<br>連絡帳は通知が来ない                     |       | 3      |      |           |    |         |
| 面倒   |       | 4      |      | 1         |    | 2       |
| ログインが面倒                                      |       | 10     | 1    |           |    | 1       |
| 忘れる/たまに思い出す                                  |       | 13     | 2    |           |    |         |
| 毎日何かしら更新がある                                  |       |        |      |           | 1  |         |
| 毎日連絡があるわけではない                                |       | 1      |      |           |    |         |
| 周りの友達が教えてくれるので<br>自分では確認していない                |       | 2      |      |           |    |         |
| 学校に行く機会が少なく<br>掲示板を見られない                     |       |        |      | 1         |    |         |

\* 同様趣旨の回答の人数

ていた。各学年に 1 人、ほとんどチェックしないと回答した者もいるが、大多数は定期的なチェックをしておらず、「思いついた時に」という回答であった。特に 2 年生では定期的にチェックしている学生の割合が低く、このことは情報源として「友達から間接的に」を選択した人数が多いことと相補性にも思え興味深い。

このような連絡チェック頻度の背景には、学年による生活パターンの違いがあると思われる。3, 4 年生と学年が進むにつれて頻度が上昇しているのは、上述したように生活の場が学部に移り、連絡の重要性を意識するようになったためと考えられる。1 年生では 2, 3 日に一度はチェックしてい

る人数が多いが、学部キャンパスでの授業が少なく、学部の掲示板を目にする機会が少ないこと、また調査時期が進級直後すなわち学年の初めであったため、こまめに（真面目に）チェックしていることが考えられる。これは学年末に調査した 2 年生においてチェックの頻度が低いことと対比できるかもしれない。2 年生では専門科目の授業が本格化するが、その一方で生活リズムの切り替えが上手くできない学生も見られる。また授業への関わり方など普段の生活をみても、学年の生活に慣れてやや散漫になってきているように感じられる。このような差が連絡情報に対しての積極性にも現れているのかもしれない。

Table 1 に連絡チェックの頻度とその理由をまとめた。Positive な理由としては「大事な連絡があるかもしれない」「習慣になっている」ということが挙げられており、また「重要な連絡を見逃したことがあった経験から」という経験から学んだような記述もあった。このような positive な理由を述べた学生には定期的にチェックしている者が比較的多く見られた。定期的チェック者に多く見られたもう一つの理由は「GW 掲示板をメールに転送しているから」「転送メールを見て自分に関係あるときにチェックする」というものであった。これらは不定期な（思いついた時）チェックの理由として最も多く挙げられているが、実際 Web の画面にアクセスしなくとも連絡内容を定期的に把握しているかどうかという（学生側の）解釈の違いといえるかもしれない。

これに対し、negative な理由として多く見られたのが「PC でしか見ることができない」「スマートフォンでは重い、見られない（見難い）」「ネット環境が近くにない」などの ICT 環境要因であった。さらに「ログインが面倒」という記述も目立った。大学の情報センターではセキュリティ確保の理由から GW へのログイン認証（本人確認）を特に学外からの場合、かなり厳密に設定している。このことが逆に学生から敬遠される理由となっているようである。先述の「転送メールを見て GW

までアクセスするかを判断」しているのもこのような ICT 環境やログインの煩雑さが背景となっている可能性もある。ただ単に「面倒だから」という記述もあったが、これがチェックすること自体を指しているのか、ログイン認証を指しているのか判別はできない。このほか、大学のポータルにアクセスしても GW にたどり着くまでの道のりが遠い（リンクが解り難く時間を要する）、GW そのものが重い（レスポンスに時間がかかる）、チェックしても自分に関係のない通知の方が多い、といった記述もみられた。

友達から間接的に情報を得た場合、オリジナルを確認するかどうかについては、確認しない者は数%(2-3人)であり、半数近くが「いつも確認する」残りは「その時々による」という回答であった(Fig. 3)。ここでも「いつも確認」している率は1年生が高く、2年生以上は学年とともに上昇傾向にあり、学年による生活パターンによる意識の違いが反映しているように思える。

## ■ まとめ

学生達の大多数が GW を利用して電子的に学務連絡の情報を得ているが、頻度をみると定期的にチェックしている者は少なく、大半は不定期（思いついた時）であることがわかった。ダイジェストメールを見て関係する事項があれば GW にアク

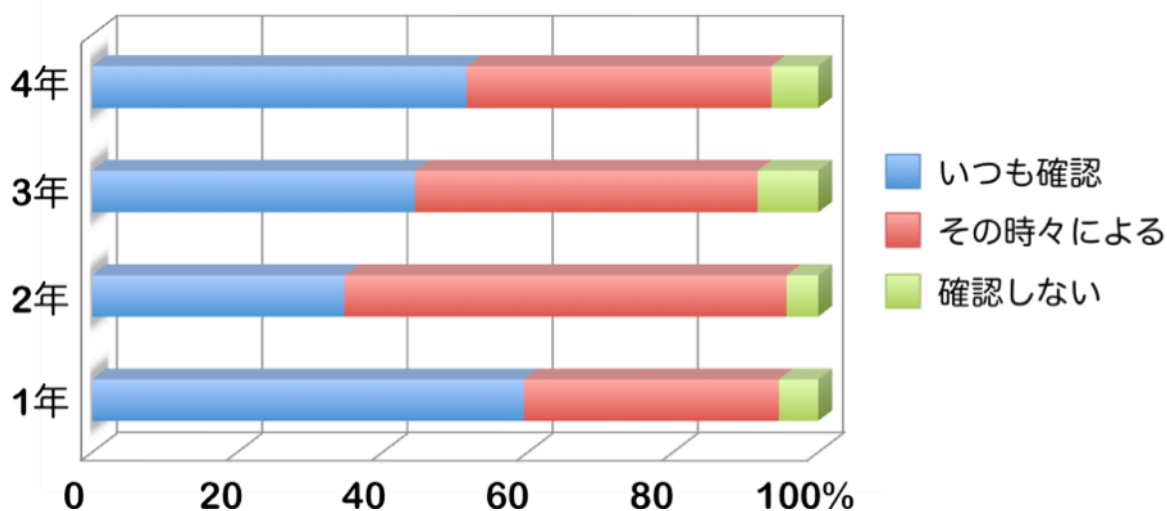


Fig. 3 学務連絡の情報を友達から間接的に得た場合、オリジナルの掲示（電子的・紙媒体問わず）をチェックしているか？

セスするというパターンが多いと推測されるが、学年による大学での生活パターンの違いや、ICT環境といった因子も背景にある。さらにログイン認証の煩雑さが直接のアクセスを遠ざけており、そのためクラス内での口コミ、メーリングリスト、SNS といった補完的情報ルートが存在している。

学生達のメインの情報機器はスマートフォンであり、PC を毎日持参するのは非現実的である。

せっかくログインしても GW にたどり着くまで遠い、重いといった意見もある。学生達のチェック頻度を高め、連絡漏れを防ぐためには、彼らのメインツールであるスマートフォンに対応し手軽にチェックできる伝達方法を考える必要があると思われる。